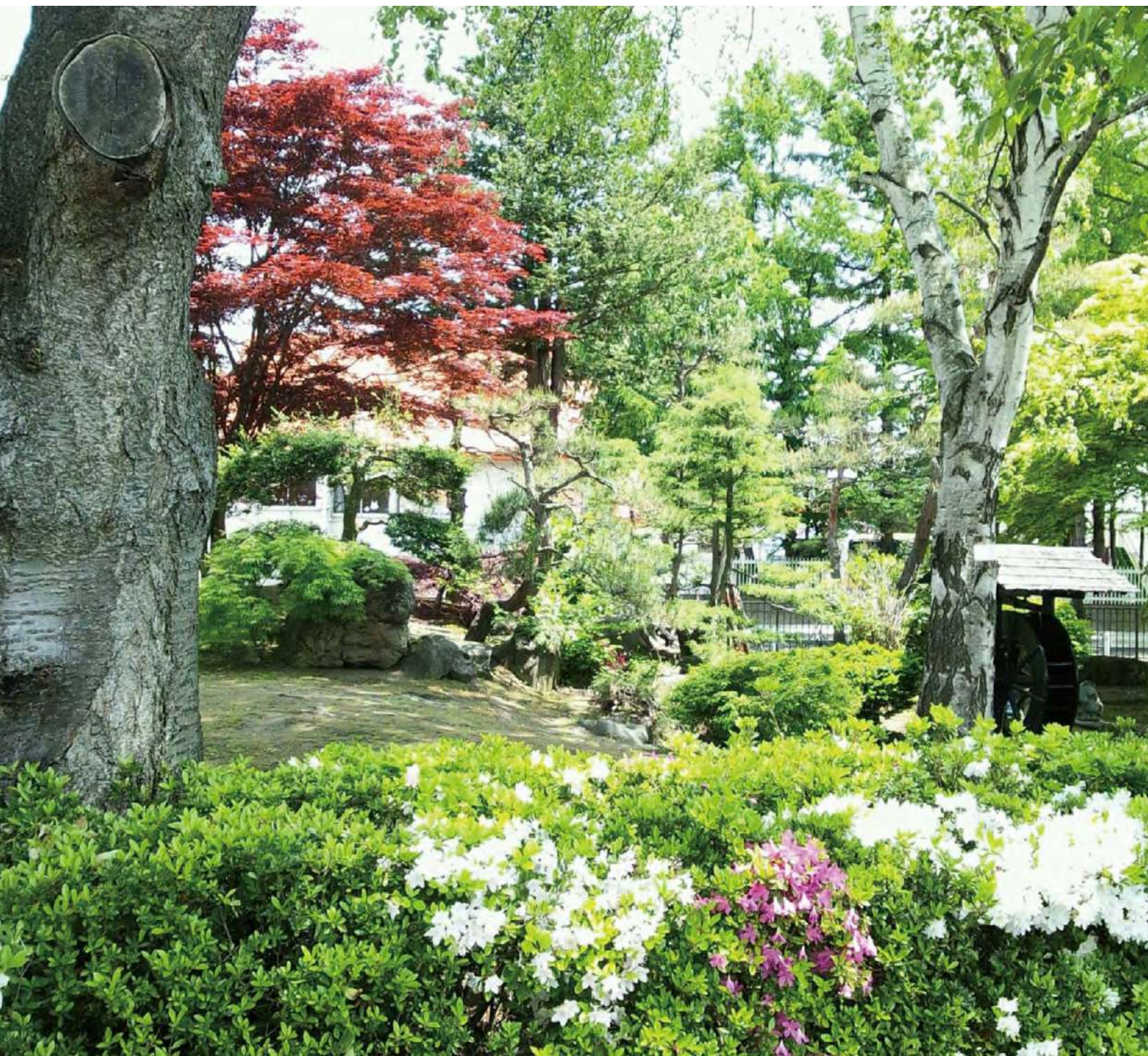


こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
幼保連携型認定こども園
中央文化保育園
幼保連携型認定こども園
浦町保育園



撮影：青森中央短期大学卒業生 工藤 彩加

特集：平成29年度就職状況
「こぶしの花」100号を迎えて

vol.100

目次

特集:平成29年度就職状況 2

特集:「こぶしの花」
100号を迎えて 6

運動施設竣工
入学式・卒業式 8

青森中央学院大学 10

- ・学生発未来を変える挑戦プロジェクト
- ・学生サポーター活動
- ・東奥日報文化財団子どもの文化助成採択
- ・久留米大学との共同研究
- ・共育型インターンシップ
- ・創業・起業 個別相談会
- ・ポタリング
- ・学生団体「ディベラボ」
- ・ボウリング部学生国体出場！
- ・硬式野球部 OB 会
- ・県内初！SDG s セミナー開催
- ・国際交流センターより
- ・別科助産専攻開設
- ・「認知症 Café」参加
- ・サイアム大学看護学部短期研修を終えて
- ・ひらめきときめきサイエンス
- ・就職内定者による報告会
- ・短期留学プログラム

青森中央短期大学 16

- ・ピートブコンクール「ドイツ大使館賞」受賞！
- ・カフェテリアメニュープランニング
- ・太宰治への伝言
- ・「最後の真珠」メッセージカード展示
- ・管理栄養士免許取得のための勉強会
- ・食物栄養学科 入学者発表会
- ・青森サミット
- ・親子クッキング
- ・青森県福祉介護人材確保対策事業
- ・スノーボード実習
- ・地域に根づく保育者育成と採用を考えるシンポジウム
- ・先生の自分史
- ・研究室を訪ねて
- ・読んで欲しいこの 1 冊
- ・卒業生も活躍しています

附属第一・第二・第三幼稚園
浦町保育園 中央文化保育園 20

- ・行事アルバム
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本

青森中央文化専門学校
青森中央経理専門学校 22

- ・Bunka Fashion Live
- ・Bunka Fashion Liveに携わって
- ・ユニバーサルファッションショー
- ・卒業発表を終えて
- ・経理発信情報 ・ファッション通信
- ・おススメ図書 ・卒業生ピックアップ

新教職員紹介 24

学園共通 26

特集 平成29年度就職状況



幼稚園保育園就職相談会



就職活動体験発表会



看護キャリア支援セミナー「地元で働く卒業生との集い」



病院説明会



専門学校卒業生講話



職場実習

平成29年度のキャリア活動を振り返って

キャリア支援センター長 塩谷 未知



本学園は専門学校、短期大学、経営法学部そして看護学部より構成され、専門分野が広いだけでなく、学生たちの就職・就業の意識や価値観、バックグラウンド、そして就職活動そのものが多種多様です。

多種多様な学生たちが、世の中の多種多様な企業や団体、病院などへの就職活動に果敢に挑戦しています（看護学部は平成29年度に第1期生を送り出しました）。

就職氷河期、金融危機を経て現在は、2020年の東京オリンピック景気もあり、総論的には学生に有利と言われています。しかし、個別の学生の立場では有利とは言い切れません。

また、100年人生時代、働き方改革、ブラック企業など、働く環境は複雑さを増しています。さらに経団連の就職活動ガイドラインは不安定で、学生と企業の両者が戸惑っています。

このような就職情勢の中で、平成29年度卒業生は積極的に就職活動を行いました。その結果、就職内定率は専門学校94.7%、短大99.2%、そして経営法学部95%、看護学部100%という成果を上げました。学生自身の日頃の努力により、高い就職内定率を実現しています。

地域の企業、団体、病院の方や関係者、本学園卒業生、指導教官、キャリア支援センターのスタッフや関係者の皆様の温かいご支援とご指導に心から感謝致します。



インターンシップ報告会



トライアウト「模擬面接」

学内企業就職セミナー

平成30年度の就職活動のキックオフとなる第17回本学園企業セミナーは、県内外の数多くの企業や団体のご支援を得て、3月1日に開催されました。学生はお互いに刺激し合いながら企業の方の丁寧な説明を熱心に聞いていました。参加企業数と学生数のバランスがよく、「多くの学生さんが訪れた」と企業の方にも好評でした。

また、看護学部では青森県内の中規模以上の病院・施設の就職説明会を3月24日に実施しました。その結果、参加学生の県内病院への関心が高まりました。

学内就職セミナーを通じ、本学園に対する企業や団体、病院・施設の皆様の温かい心配り、教職員の皆様のご支援に心より感謝いたします。参加学生が就職活動をスムーズに開始でき、貴重な情報とチャンスに出合った学内セミナーとなったことを改めてご報告しお礼申し上げます。

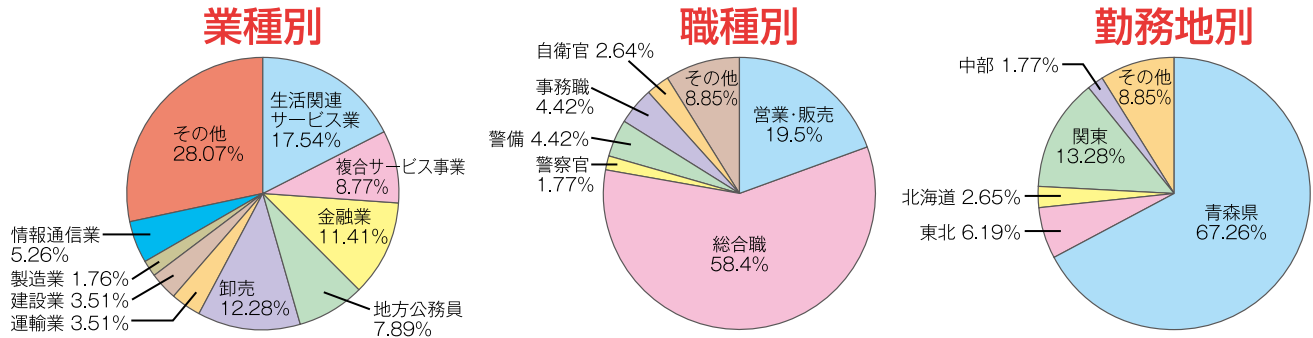
(キャリア支援センター長 塩谷 未知)



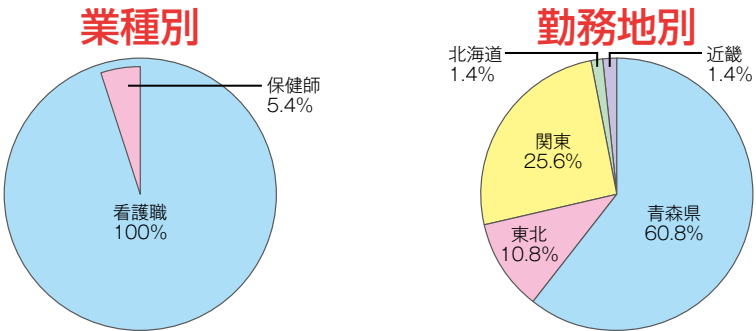
青森中央学院大学の状況

平成29年度3月に看護学部は1期生を送り出しました。最初に経営法学部、次いで看護学部について紹介します。就職活動ガイドラインの変動に企業も学生も多少慣れました。解禁前のインターシップ、早期内々定とその辞退や再募集などが普通になり、就職活動の長期化が進みました。

経営法学部の就職内定率は95%となり、地域の生活や事業を支える県内の企業や団体、そして公務員へと活動の場が広がっています。また、過去に実績のない業種や職種に果敢に挑戦し内定を得る学生も多数おりました。



看護学部は、教職員を中心に国家試験対策や就職支援活動を熱心に行ってきました。1期生の進路状況は、青森県内就職率60.8%の45名、北海道・東北9名、関東19名、その他1名で就職率は100%。国家試験合格率は全国平均を上回る91.1%でした。



新卒での就職活動は貴重な機会です。この時期に多くの人や企業・団体、そして病院・施設に出会うことで、人間的に成長することが期待されます。学業、学外活動、就職活動など一生懸命やり、後に「あの時やっていたよかった」と思えるようになりたいものです。

(キャリア支援委員会委員長 塩谷 未知)

就職活動体験記



鈴木 龍雅 さん 経営法学部
東北化学薬品

私が就職活動で心がけていたことは、とにかく早めに行動することです。自分の行きたい業界や業種等がある程度絞っておいたことで、3月の企業説明会でスムーズに動くことができました。企業説明会等では、HPだけでは得られないたくさんの情報を聞くことができます。少しでも気になる企業があったら、絶対に説明会に行ってください。

それから、課外活動に積極的に参加しましょう。ほとんどの企業の面接で、自己PRと学生時代に頑張ったことが聞かれます。その時、課外活動を経験していれば、スムーズに返答でき、他の就活生より有利になります。

就職活動は長く険しい戦いになります。学生生活の短い時間の中で様々な経験をし、自信を持って就職活動に挑んでください。



中島 成美 さん 看護学部
弘前大学医学部付属病院

私が本格的に就職活動を始めたのは、3年生後半の長い実習が一段落した3月頃でした。3月から新4年生になった4月にかけて、キャリア支援センターで得た情報や先生方の勧めをもとに、気になった病院のインターンシップや病院見学に行きました。また、病院就職説明会には出来る限り参加しました。しかし、なかなか一つの病院に決めることができず、最終的に就職希望先を決めたのは6月です。決めてからは、成人看護学実習の事前学習や看護研究と並行しながら、キャリア支援センターで願書の添削や面接練習などの指導を受けました。

7月の実習中に試験を受け、8月上旬には、無事、内定をいただくことが出来ました。関わってくださった方々に感謝しながら、これからも頑張ります。

青森中央短期大学の状況

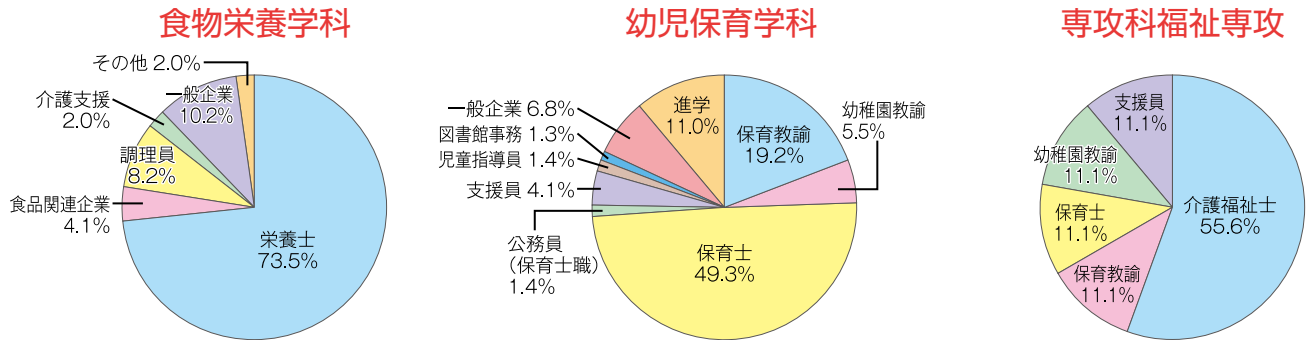
平成29年度の就職活動は、昨年度よりも一段と学科の基幹となる資格や受講内容を活かした専門職への就職が増えました。同時に、早期の説明会や試験、そして内定を取得する学生も増加しました。一方、年度の最終確定時期は例年並みですので、一年中誰かが就職活動をしていることになります。学生も頑張りましたが、教職員すべてを含めた支援の賜物だと感謝しています。

食物栄養学科は就職率98.0%を達成しました。特に前期の内定取得のピークが平成28年度の7月から6月へと、一ヶ月早くなりました。内訳として、栄養士の就職が73.5%に達しています。また専門職全体（栄養士と食品関連企業）の就職率は、昨年度の84.8%から1ポイント増の85.8%を実現しました。

幼児保育学科は就職率100%を達成しました。専門職全体（保育士、幼稚園教諭、保育教諭）は80.9%であり、安定して毎年80%前後の高水準を維持していることに加え、専攻科福祉専攻への進学者、公務員としての正規採用、図書館事務への就職があるなど、多様な進路が見られます。専攻科福祉専攻は就職率100%を順調に維持しています。

また、地元定着率ですが、青森県内を勤務地とした就職が本学全体としても63.1%を達成しました。人口流出が続く青森県にあって、今後も人材を育てるだけでなく、青森県に定着させることで地域とともに歩む短期大学として、学生へのキャリア支援をさらに続けて参ります。

(キャリア支援委員長 宮田篤)



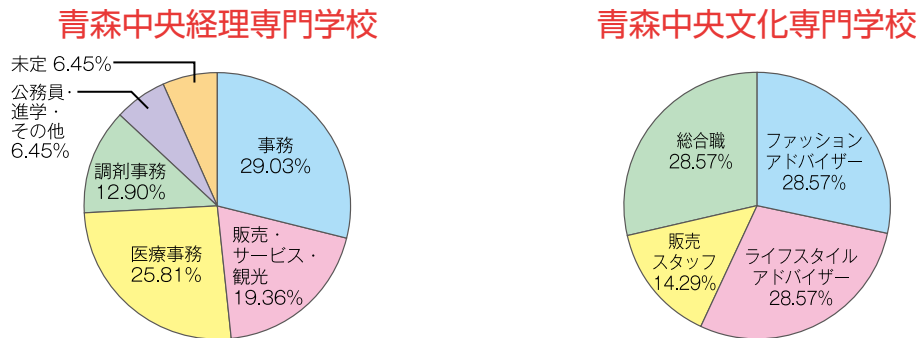
青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校の状況

専門学校全体として94.7%の内定率でした。昨年・一昨年度は100%でしたので残念ながら3年連続とはなりませんでしたが、「専門職への就職」という観点では、経理事務コースでは、みちのく銀行等への金融機関、医療事務コースでは、調剤事務・医療事務、観光コンシェルジュコースでは、グランクラスアテンダント、また、アパレルやファッション販売への内定があり概ね専門性の高いコース・専攻に即した企業への就職が達成できたと感じています。要因としては求人倍率の向上等外的な要因はありますが、学生個々の意識の向上があげられます。キャリア支援センターとの連携で展開する1年次からの授業「キャリアデザイン」においては、少人数のメリットを活かし座学だけでなく外部講師や企業見学等各種プログラムを体系的に実施し意識涵養を図ってきました。

特に年初に実施する「内定者報告会」は、2年生の「生の声」を受け、1年生の就職活動解禁のスタートダッシュに役立ちます。

今年度も、学内プログラムの充実と合わせ職場訪問等企業との連携を継続しながら、引き続き全員内定+専門分野への就職率アップを目標に支援していききたいと考えています。

(キャリア支援担当 鈴木 伸吾)



こぶしの花 100号を迎えて

〈第1号〉



記念すべき第1号は1981年10月発行。久保豊前理事長の言葉が表紙を飾り、「青森中央短期大学学園だより」として誕生。

〈第30号〉



翌年の開学を控えた「青森中央学院大学」紹介号

〈第37号〉



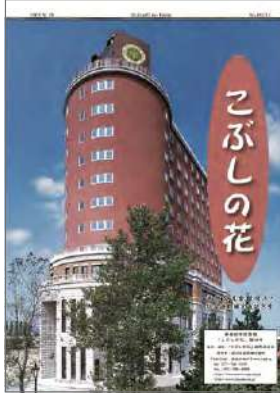
青森中央短期大学開学30周年記念となる「北まほろば中央の碑」を表紙に

〈第10号〉



10号では東北初となる個室学生寮「こぶし会館」竣工を紹介。表紙も初のカラーで白亜の建物を紹介。

〈第46号〉



46号は学術交流会館竣工と総合運動場完成記念号に

〈第50号〉



50号では、こぶしの花の歴史と共に学園を振り返る企画を掲載



青森中央短期大学開学40周年記念号は、普段とデザインを変えて表紙も楽しく。1冊に記念事業をまとめて紹介。



学園創立60周年記念号は、青森中央短期大学看護学科開設記念共に特別号で発行

〈第19号〉



19号からはB5サイズからA4サイズに拡大。幼稚園・専門学校のページも増えた。

〈第33号〉



青森中央学院大学開学と共に、新たに「学校法人青森田中学園だより」に。

〈第41号〉



2001年からは2色刷りでカラフルに。題字デザインを一新し、現在の「青森田中学園報こぶしの花」のタイトルもここからスタート。

〈第82号〉



学生記者によるオリジナル記事の掲載を開始。

〈第81号〉



2011年の81号、大幅リニューアルを敢行。フルカラーとなり、レイアウトも一新。在学生による写真作品の応募も開始し、表紙に採用。

〈第96号〉



学園創立70周年を記念して設定された「VIガイドライン」で各設置校のカラーを一新

〈第100号〉



創刊から37年、青森中央学院大学20周年を迎えた平成30年、100号を発行

第2体育館・屋内練習場竣工！

青森田中学園創立70周年記念事業として建築が進められた第2体育館ならびに屋内練習場が完成し、4月13日に竣工式を執り行いました。

新体育館はハンドボール、バスケットボール他多種競技に対応できるアリーナのほか、ミーティングルーム・ギャラリー150席も備えています。屋内練習場も、人工芝による練習スペースの他、ブルペン4カ所を備え、冬期間も練習に専念できる環境が整いました。

昨年度完成した人工芝サッカー場も含め、総合運動場としての機能がより一層充実してまいりました。既にサークル活動、各種試合会場としても使用されており、活用可能性の広がりが期待されます。



【屋内練習場】

練習スペース（43.9m×34.3m）、人工芝、可動防球ネット、ブルペン4ヶ所、用具庫
※各種行事・部活の練習に対応



【第2体育館】

ハンドボール、フットサル、バスケットボール、バレーボール、バドミントン その他多種競技に対応
ギャラリー150席分・更衣室 男女各1室完備



【サッカー場】※平成29年6月使用開始

面積 8,814㎡ サッカーコート（68m×105m）、人工芝、外周フェンス



PHOTO GALLERY ～出会いと別れの春を迎えて～

平成30年度入学式



青森中央学院大学



青森中央経理専門学校・
青森中央文化専門学校



青森中央短期大学



入学許可



幼稚園入園式

卒業・卒園



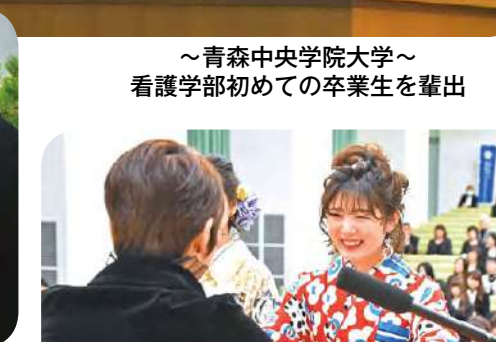
祝賀会で学生最後の時間を楽しむ



～青森中央短期大学～



～青森中央経理専門学校～



～青森中央学院大学～
看護学部初めての卒業生を輩出



～幼稚園卒園式～
成長した姿に感慨もひとしお



～青森中央文化専門学校～

青森中央学院大学

「平成29年度 学生発未来を変える 挑戦プロジェクト」参加

平成29年度の専門演習Ⅰは、ゼミ生の希望により県主催の「学生発未来を変える挑戦プロジェクト」が中心的な活動となった。テーマを「若者の県内定着を目指せ－新社会人サポート・プロジェクト」とし、高校・大学卒業時の県外流出者が多いという実態を踏まえ、「新社会人層の県内定着が重要である」という仮説に基づく課題設定を行った。

プロジェクトは、ゼミ生の主体的な取り組みを最優先した。文献調査による実態分析、アンケートとインタビュー調査の企画・実施、データ分析、県側との調整作業等、全ての活動領域が学生たちの自主的な取り組みによって進められた。

経営学では組織を「協働システム」として捉える考え方があるが、今回のプロジェクトを通じてこれが意味するところを実体験できたのではないかと考える。知識の修得も大事であるが、協働システムの一員として貢献することの重要さと困難さとを経験する貴重な場が持てたことの意味は大きい。
(経営法学部教授 小松原 聡)

東奥日報文化財団こどもの文化助成採択

東奥日報文化財団の実施する「こどもの文化事業助成制度」の2018年度分として、青森中央学院大学の「グローバル食堂inしんまち」が採択され、助成を受けることとなった。

この事業では、新町商店街にあるサテライトキャンパス「フレンドリー・ウィンドウ」で地域の子ども達に留学生の母国料理を無料で提供している。母国の紹介などの国際交流の機会とすることを目的とし、留学生が交代で毎月1回土曜日に実施している。

6月、7月はベトナムからの留学生が、揚げ春巻きやベトナム風のココナッツミルク入りおこわ等を提供した。

今後も、タイ、マレーシア、中国からの留学生が順次母国料理を紹介していく。



学生サポーターによる 農山漁村の子ども達との交流事業

平成28年度、29年度の2年間にわたり、青森県教育委員会の主催で、農山漁村に学生サポーターを派遣し小学生と様々な交流を行う「農山漁村における学生サポーターによる土曜学習活性化事業」に、青森中央学院大学・青森中央短期大学名の学生28名が参加した。

学生サポーターとして登録した学生は、県内各地の「放課後子ども教室等」で、普段大学生と接する機会の少ない農山漁村の子ども達とのレクリエーション活動やものづくり体験、学習教室等で交流を行った。参加した子供たちにとっては、大学生に対するあこがれや希望に繋がり、学生たちにとってもキャリア意識の醸成や子供を知る良い機会となった。



久留米大学との共同研究

本学と連携協定を結んでいる久留米大学の矢野栄次教授、松下愛学長特命講師が本学との共同研究を実施するため、本学の内山清教授、庄子元助教とともに弘前市や東北町を訪問した。

弘前市では青森県の伝統工芸である津軽塗の展示を視察し、津軽塗の職人から作業工程や製品のトレンドに関する説明を受けた後、国内最大級の木工家具産地である福岡県大川市との連携が検討された。

東北町では、蛸名鉦治町長を表敬訪問し、東北町における第一次産業の現状や課題の説明を受けた後、小川原湖でのシジミの競りを視察した。その後、町役場において東北町の第一次産業活性化の方向性について農業を中心に議論され、大規模かつ組織的な農業が展開し、企業への農産物の直接販売が盛んである九州北部地域の事例が示された。

今回の視察によって、日本の遠隔地に位置する青森県、福岡県の共通課題や連携の可能性が明らかとなり、地域に貢献することができる共同研究の足掛かりとなった。

共育型インターンシップ

COC+では、大学生の地元定着を促進するため、企業や学生にもメリットがある期間の長い共育型インターンシップを実施、推進していますが、本学は共育型インターンシップのプログラム開発を担う主査校として、中心的役割を果たしています。

これまでに企業向け共育型インターンシップ・フォーラムや、従来型を含む導入セミナーを開催したり、自治体、企業、NPO法人、八戸工業大学の各メンバーとワーキンググループを組成し、年2～3回の会議を開催しています。

昨年度は、NHK青森放送局、株式会社若山経営および青森テレビで約1か月の共育型インターンシップが実施され、本学から10名の学生が参加しました。

残念ながら地元企業では短期のインターンシップすら実施していない企業が多く、負担が大きい共育型インターンシップの実施企業はまだ少数ですが、COC+では今後とも企業、学生への啓発、周知等を中心に、事業を展開していく予定です。

完成！ポタリングマップ

青森中央学院大学ではCOC+事業の一環として、内山ゼミの学生がポタリングマップの作成に取り組んだ。このマップは自転車を利用して、お散歩感覚で市内の各所を巡る際に役立ち、素晴らしい景観や歴史的な史跡、地域のグルメスポットなどが記載されている。徒歩で訪れることのできる範囲は限られていて、域外者にとってバスの利用は難しく、タクシーの利用はコストが嵩む。天候さえよければ、そよ風に吹かれて自転車で移動するのは格別である。体験型の観光活動が拡大していく中で、地域の観光スポットや観光コースなどを効果的に



創業・起業 個別相談会

2月19日に創業・起業に係る個別相談会を開催した。学生に対する創業・起業支援については、COC+青森ブロック事業として、21あおり産業総合支援センターからインキュベーション・マネージャーを講師に迎え、6月から11月まで事業計画書の策定方法や財務会計の基礎など、これまで5回にわたってセミナーを開催してきた。

また、経営法学部キャリアプランニングのG-コマースでは、青森市のブランド商品づくりを目指し、温かいリンゴジュース（ホットアップル・サイダー）の商品販売方法を企画し、HOT-Aプロジェクトとして青森市のまちなかフィールドスタディー事業に採択されたところである。

今回の個別相談会は、3月8日・9日の2日間、東京都港区赤坂にある青森市が開設した「Ao Mo LinK～赤坂～」で、テストマーケティングを行う学生が、事前に21財団のインキュベーションマネージャーを講師に、事業戦略や市場戦略などについて熱心にアドバイスを求めている。



学生団体ディベラボ

私達青森学生団体ディベラボは、学生によるイベント開催や商品開発により、青森の活性化を目指す学生団体です。

前年度は、「青森おやき」というソウルフードを開発し、実際に店舗で商品として売られました。商品開発をするにあたり、私達は青森商工会議所の皆さんに協力してもらいながら、市の助成金「フィールドスタディ」という制度を活用してきました。この助成金を受けるためには、実際に青森商工会議所でプレゼンテーションを行う必要があり、その為のスライド作りなどをメンバーと協力して取り組んでいきました。大変でしたが、終わった後の達成感は忘れられません。

さらに、「フィールドスタディ」には助成金を使ってどんな活動をしたのかを発表する「報告会」が

あり、私も実際に青森市の小野寺市長の前で発表させて頂きました。とてもとても緊張しましたが、自分の成長を感じることができた瞬間でした。

このような活動から様々な方に知ってもらい、今ではオープンキャンパスなどでも発表させて頂けるまでになりました。

商品開発という「初めて」ばかりの活動でしたが、ただ大学生活を送るだけでは得られない多くのことを経験し、何より自分たちが考えた商品が形になっていく瞬間はとても嬉しかったです。

そして、今年度もまた新たな商品開発に取り組んでいます。去年の経験を生かして、さらに皆さんに知っていただけるような活動をこれからもしていきたいです。

(学生団体ディベラボ代表 外川 文太)



ボウリング部学生国体出場！

ボウリング部は、11月に行われる全日本大学選手権で、男女アベック優勝を目標に、日々努力しています。創部10年目のこれまでで、優勝が男子1回・女子3回という実績を持ち、これからも期待できると思います。今年は特に、実力のある1年生が加わったこともあり、優勝できる実力が十分にあります。今年度は9月に開催される国民体育大会へも、男子3名、女子1名が出場予定で、結果も十分に出してきています。

全日本大学選手権大会では、男子は2年振り、女子も5年振りの優勝をめざして頑張りますので、今後の活躍に期待してください。

(ボウリング部部長 石川 新)



硬式野球部OB会

硬式野球部では2月3日、必勝祈願で今後の躍進を誓い、夜には硬式野球部OB会ならびに4年生を送る会を開催しました。毎年、OB会を実施していたのですが、今年度から新たに4年生を送る会も同時開催し、OB会をもっと盛り上げようと考えました。教職員含め73名の方々に参加していただき、盛大に開催できたことを感謝申し上げます。

3月には沖縄遠征を実施し、チーム力の向上を図り、4月21日から始まるリーグ戦に気合十分で臨みました。

今年から1部に定着し、さらに上位をめざしていきたいと思っています。今後も応援よろしく申し上げます。



県内初！SDGsセミナー開催

5月26日と6月9日の2回、青森中央学院大学は、高校生を主な対象としたSDGsセミナーを開催し、青森高校・青森明の星高校・青森南高校の高校生29名、本学学生12名（日本人学生3名・留学生9名）、青森市内ALT3名の参加のもと、「青森の未来とSDGsをつなぐ」をテーマにSDGsについて体験し、考えてみました。

“2030年までに貧困に終止符を打ち、持続可能な未来を追求しよう！”

大胆かつ新しい「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が2015年9月に国連総会で採択され、そこに盛り込まれているのが、世界を変えるための17の目標「SDGs（エス・ディー・ジー・ズ）=Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標」です。途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、2016年1月から実施されています。

5月26日には、一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）の辰野まどか代表と鈴木大樹シニアダイバーシティ・ファシリテーターを講師に迎え、「2030SDGsカードゲーム」を使い、さまざまな価値観や違う目標を持つ人がいる世界で、どうやって我々はSDGsの17の目標を達成していくのか、現在から2030年までの道のりを体験しました。

6月9日には、同じSDGs目標の達成を目指す仲間と、今自分たちができることが世界や青森の未来とどうつながるのかを考えました。

本学において、持続可能な世界を後世に残すため、また青森や日本が持続的に成長していくため、SDGsを取り入れた活動がすでに始まっています。これを機に多くの方とSDGsについて考えていきたいと思っています。



地域とともにインバウンド誘致10年、そして青森のPRへ

青森中央学院大学は、民間団体の「あおもりくらしの総合研究所」や青森県と連携して、1997年に「アジアからの観光客誘致推進協議会」を設立し、グリーン・ツーリズム体験を主としたアジアからの教育旅行や視察旅行等の誘致をしています。2017年11月、創立10周年を記念して、「青森県グリーン・ツーリズム国際フォーラム」を開催しました。

フォーラムでは、青森県知事にこれまでの台湾の学校との交流をご紹介いただき、コーディネーターやパネラーからは、本協議会の10年の誘致実績と地域への効果等の報告がありました。

この10年の誘致活動で、

- ・農家民泊を担当する農家の副収入のアップ
 - ・県内に3、4泊連泊することによる経済効果
 - ・青函を意識した行程による相乗効果
 - ・青森独特の体験に伴う青森のアピール
 - ・スキー体験等による冬の活用を実現
 - ・学校交流による県内中高生への教育効果
 - ・交流人口の増加に伴う地域の活性化
- など、地域への様々な貢献ができました。

そして、これらの活動を通して、アジアの方々に青森をPRすることができ、リピーターとして何回も青森に来てくださる団体が多くなってきました。

1年目に35名の誘致からスタートし、平成29年度は700名超の誘致をすることができました。今後もさらに地域に貢献できるように本活動を推進していくつもりです。



別科助産専攻開設！

本年4月より、青森県内唯一の助産師養成1年課程として別科助産専攻が開設されました。本専攻の設置に際しましては、諸先生方および関係機関の皆様から多大なるご尽力をいただき、心より感謝申し上げます。現在、在籍している5名の学生達は、連日の講義・演習と懸命に向き合い、ようやく前学期の授業を終えました。また、8月～9月に出産予定の妊婦さん1名を産後1か月まで継続して受け持たせていただく助産学実習も、学内での授業と並行して進めています。地域で暮らす女性・家族と出会い、安全で質の高い助産実践力、助産師としての役割と心構え、地域貢献を学ぶスタート地点に立ったところです。

これから先、青森中央学院大学別科助産専攻の第1期生であることに誇りを持てるよう、教育にあたってまいります。皆様から助産学生へエールを送っていただきたく、お力添えをお願い申し上げます。

(別科助産専攻主任
伊藤 道子教授)



サイアム大学看護学部短期研修を終えて

看護学部4期生 八木澤 優奈

私は2月25日から3月4日までサイアム大学看護学部短期研修に参加しました。そこで、タイの看護や生活習慣、文化、看護学生の勉強・演習などを体験しました。病院見学では日本の病院と比較しながら見ることができました。看護協会訪問では、高齢化するタイの現状や患者のためのより良い環境づくりなどの取り組みについてお話を聞きました。また、タイの看護師の免許やキャリアアップについて知ることができました。海外の病院内の見学がで



青森市妙見地区「認知症Cafe」参加

看護学部2期生 久慈 綾乃・佐藤 百香・高橋 智

私達保健師教育課程で学ぶ学生20名は、地域の支援実習の一環として、妙見地区の認知症Cafeに参加しました。Cafeでは地域の皆さんを対象に「認知症の予防」と「骨粗鬆症の予防」の2つの健康教育を実施しました。認知症予防グループは、脳を活性化させるクイズやゲームを体験してもらいながら、普段の生活の中で脳を刺激できる方法についてお話をしました。骨粗鬆症予防グループは、骨粗鬆症を分かりやすく説明し、骨を強くする体操で骨粗鬆症を予防しましょうと呼びかけました。会場みなさんは大きくうなずきながら真剣に耳を傾けてくださり、クイズやゲーム、体操の場面では、会場中から笑い声があふれて楽しい時間を過ごすことができました。

このように、私達は実際に地域に出向いて実習を重ね、地域の方々から学ばせていただきながら保健師をめざしています。



ひらめきときめきサイエンスに参加して

看護学部3期生 工藤 康平

私は8月に高校生を対象として行われたイベント、ひらめきときめきサイエンス「人体解剖学を活用して適切な注射の場所を探してみよう」にスタッフとして参加しました。皮膚に光をあてると血管が透視できる特殊な機械で自分の静脈を観察し、それを基に3Dペンで静脈モデルを作成、いくつかのタイプに分類して自分の静脈における適切な注射部位を探すという内容でした。県内から約20人の高校生が集まり、聴講から静脈モデルの作成まで楽しく実施することが出来ました。

準備から携わり、静脈モデルを作成する際に使う発泡スチロールの加工や、機械の確認、教室のセッティングなど普段は出来ない経験をしました。看護を学ぶ私達にも新しい発見が多くあったので、参加した高校生達にも良い体験になったと思います。この企画を通し、看護の知識を学ぶ意欲がさらに増しました。



短期留学プログラムに参加して

看護学部4期生 鳥谷部 真恵

私は2月17日から3月17日まで、オーストラリアのマッコリー大学へ短期留学しました。約4週間の留学で、海外へ行くことが初めてというのもあり、漠然とした不安がありました。しかし、いざ現地に到着するとホストファミリーや現地のスタッフが温かく迎えてくださり、安心しました。初めは、英語を聴きとることも話すこともやっとの思いでしたが、次第に聴きとることができるようになり、ホストファミリーとの会話が楽しみになりました。

また、他の大学の人たちともすぐに仲良くなるこ



キャリア支援セミナー「就職内定者による報告会」に参加して

看護学部2期生 豊嶋 未夢

11月のキャリア支援セミナーに参加して、就職の内定が決まった先輩方の話を聴きました。先輩方の体験談から、実習や研究などを並行して就職活動も進めていくには、自分のスケジュールをしっかりと管理し、計画的に行うことが大切だと学びました。

試験日が近づくと面接練習者で混み合うことや、願書の必着日はいつかということを考え、早めに行動することが必要だということがわかりました。また、県外志望者は、採用試験の日程が早くなっており、どんどん内定が決まっていくため、早めに採用試験を受けたほうがよいこともわかりました。面接は試験の中で大事な項目で、用意していた答えを完璧に言うのではなく、自分の意見や考えを、その場で、どれだけ面接官に伝えることができるかが、鍵になることも教えてもらいました。

日頃から自分の意見や考えをもっていなければ、相手に自分の思いを伝えるのは難しいことだし、実習が続いてスケジュールも過密になってきましたが、今回の学びを就職活動に役立て、第一志望合格をめざして頑張りたいと思います。

とができました。アクティビティも多く、楽しみながらも英語が身についてくることがわかりました。授業はとても楽しくて、毎日あつという間に授業が終わってしまい、もっと授業を受けたいと感じてしまうほどでした。

1番楽しかったことはクラスの友達と休日にビーチに行ったことです。ボディーボードをしたりビーチバレーをしたりと、とても充実した一日を過ごすことができました。また機会があればオーストラリアへ行きたいです。さらに他の国へも留学してみたいと思いました。



青森中央短期大学

ビオトープコンクール「ドイツ大使館賞」受賞！

青森中央短期大学は「全国学校・園庭ビオトープコンクール2017」(公益財団法人・日本生態系協会主催)において「ドイツ大使館賞」を受賞しました。授賞式は3月11日に行われ、ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン大使から賞状及び副賞を頂きました。

その後、秋篠宮殿下のご臨席を賜り、厳かな雰囲気のもとで、ビオトープサークルの学生たちが本学の取り組みについて発表を行いました。発表



会場には、今回のコンクールで受賞した他の学校関係者や多くの一般の観覧者が来場しました。

受賞理由は、本学のビオトープが幼児保育学科の保育者育成カリキュラムに活用されていることと、法人によるバックアップ体制の充実です。発表の後には、同会場内に設置されたポスター発表のブースに移動し、全国のビオトープ関係者と交流を深めました。



学生によるカフェテリアのメニュープランニング

食物栄養学科では、フードスペシャリスト資格の履修科目であるフードコーディネイト演習において、カフェテリアの冬期メニューをプランニングした。学生は「冬に提供するヘルシーランチのメニュー」のテーマに対し、コンセプトとサブテーマ「大学生がこれを食べて温まり、寒さに負けずに頑張ってもらいたい」「あったま～るぽかぽかランチ」を設定、「雑穀米いりキムチ雑炊、白身魚ハーブ焼き、ナムル、フルーツ（みかん）」を作成した。

体を温める食材としてキムチや生姜を使用し、辛いのが苦手な人にも食べやすいようにと雑炊を考えていたが、提供されるまでに水分を吸ってしまうのではとアドバイスしたところ、雑穀米とキムチスープとして提供し、好みで自分でかけてもらう形にした。試作により彩りや味の改良を行い、そのレシピがカフェテリアで実際に学生に提供されることになった。(写真は試作時)



太宰治への伝言

食物栄養学科2年 是川 詩乃

始まりは高校3年生の11月に部活の顧問の先生に渡された1枚のチラシでした。高校演劇を3年間やってきた私にとって、脚本家として次のステップへ上がるための大きなきっかけとなりました。

授賞式、プロデューサーさんやスタッフさんとの打ち合わせ、台本直し、ロケハン、撮影本番、編集作業、完成披露…とどんどん作品が出来上がっていくなかで、多くの人と出会い、プロの方々と制作をし、いろんな景色を見ることができ、部活での演劇とは違う“プロの映画を作る時ならではの楽しさ・難しさ”を知りました。この経験を糧にして、もっと幅広く活動していきたいという気持ちが強まりました。

そして、なによりもこのショートムービーを通して、金木の町がさらに発展していくことを願っています。



『最後の真珠』メッセージカード展示

幼児保育学科47期生によるミュージカル公演『最後の真珠』(12月16日 於：アウガ5 F AV多機能ホール)では、来場者の方々にあらかじめ記入・持参をお願いしたメッセージカードを会場内に展示し、ミュージカルの進行にあわせて主人公の新米天使と一緒に「幸せ」について考えて頂きました。その時のメッセージカードと公演の感動が蘇るような写真、学生たちが手作りの衣装や小道具等を3月8日から13日まで、青森市役所駅前庁舎1F駅前スクエアに展示しました。

これからも学生たちの想いと足を運んで下さる来場者の方々の想いが交流できる場を創っていきたいと思います。



食物栄養学科 入学者発表会

入学から約1週間後の4月12日、食物栄養学科1年生により、AO入学者発表会と指定校推薦入学者発表会が行われました。AO選抜で合格した学生は、入学までに3回のスクーリングに参加し、「タイ王国」についてテーマを定めてレポート作成を行いました。「タイ王国」の魅力をWebサイトの調査や留学生に対する聞き取りなどからまとめ、その成果を発表会で披露しました。

指定校推薦で合格した学生は、12月に行われたスクーリングで課題図書を1冊選びました。入学までにその内容や特に各自が注目した点を文章にまとめ、発表会で他の学生に紹介しました。

発表を通じて、大学生としての学びや課題の進め方を掴むことができたのではないのでしょうか。また、発表後の質疑や意見交換などは、同級生のことを知る良い機会になりました。



管理栄養士免許取得のための勉強会

国家試験合格者3名

本学教員による管理栄養士国家試験合格のための勉強会は、平成29年度で2年目をむかえ、参加者は16名でした。栄養士として長年のキャリアをもつ40歳代の方や、数年後に受験資格を得る20歳の方といったように、幅広い年齢層の方が参加され、また、他大学を卒業された方の参加もありました。

第32回管理栄養士国家試験の栄養士養成課程(既卒)受験者の合格率は19.2%ですが、本勉強会の参加者のうち受験者は8名であり、そのうち3名の合格者(37.5%)をだしました。

本勉強会は、卒業生に不足していると思われる分野を重点的に取り上げた内容となっております。8月から12月にかけて、講義形式の勉強会を月1回開催し、1月と2月には過去問題と模擬試験の解答・解説を行っています。

仕事をこなしながら国家試験の受験勉強を両立させることは、とても大変なことです。同窓の仲間と共に合格を目指し、ふるって参加していただきたいと思います。皆様のより一層のキャリアアップとスキルアップのために、応援し続けて参ります。

専攻科 青森サミットへ参加

専攻科福祉専攻では11月18日、弘前で行われた青森サミットに参加してきました。青森サミットは、青森県内の医療・福祉・介護の連携づくりを目的に、それらに関する独自の活動をしている個人・団体がプレゼンテーションを行う会です。保育、介護を学ぶ学生にとっても、福祉・介護だけではなく、地域とのつながり、地域づくりを学ぶ機会となりました。

青森市、弘前、むつ、八戸、十和田と県内各地からの参加者、参加団体から、医療・介護・福祉のみならず、地域おこしやまちづくりなど「包括的な地域づくり」のための取り組みが、時に真剣に、時にユーモラスに語られました。

青森県内の自主団体、個人が行っている様々な取り組みを学び、卒業後の自らのフィールドでの実践のため、持ち帰るものがあつたのではないのでしょうか。



親子クッキング

2月24日、親子クッキングが開催されました。毎年クリスマス恒例の親子クッキングですが、今回は「桃の節句のごちそうを作ろう!」をテーマに、桃の節句にちなんだお料理を作りました。女の子のお祭りというイメージが強いですが、女の子だけでなく、男の子も予想以上に参加してくれました。メニューは手まり寿司・麩のお吸い物・雛だいいふとし、ご家庭でも簡単に作れるようなメニューとしました。春休み中でしたが学生がお手伝いをしてくれ、参加者からも“学生さんが積極的にサポートしてくれ助かりました”などと高評価でした。また、“普段は食べない物も食べてくれた”“作り方を覚えたので、今度は家族にも作ります”との声がありました。今年度も桃の節句をテーマに開催されるので、たくさんの方にご参加いただければと思います。



スノーボード実習

幼児保育学科では、体育実技の中でスノーボード実習を実施しています。このスノーボード実習は、幼児保育学科の地域の特色を活かした教育の取り組みである「学びの青森化」の一つに位置付けられています。積雪期に運動量が減少する青森において、学生自身が生涯スポーツとして冬に親しむきっかけとして、また、保育者として子どもに関わる際の冬と前向きに向き合う姿勢作りをねらいとして実施して5年になります。9割以上がスノーボード初心者ですが、仲間とともに「できない」を楽しみ、「できた」に感動する時間を過ごし、冬でもアクティブな人材育成の場となっています。



青森県福祉介護人材確保対策事業

青森中央短期大学では、「介護者のための家庭でできる調理工夫」をテーマとしたセミナーを2回にわたり実施しました。施設だけではなく家庭も含めた介護現場では介護食が求められ、各所においてさまざまな工夫がなされています。今回は、技術的な工夫を凝らした介護食の前に、家庭でもできる食材の使い方による工夫を中心に調理実習を行いました。

各高齢者施設の介護者、栄養士、調理員のみならず家庭において介護している主婦の参加もあり、日々の職場や家庭における疑問を解決する機会となりました。

食物栄養学科の学生もセミナーの運営に携わり、実際現場で活躍されている方々の動きを目の当たりにすることで、より現場の雰囲気を感じることができた機会を学生にも提供しました。



地域に根付く保育者育成と採用を考える シンポジウム

地元根付く保育者を育てるために、養成校と保育現場でどのような取り組みが必要とされているのかを考えるシンポジウムが2月24日開催され、県内の幼稚園や保育園から多くの方々にご来場頂きました。

大阪府『やまなみ幼稚園』理事長・園長の田中文昭先生の講話では、幼稚園を軸とした養成校や地域との協同による人材育成の様々な取り組みが紹介されました。また、五所川原市社会福祉法人あおもり愛育会理事長の渡邊建道先生、認定こども園百石幼稚園（おいらせ町）副園長の松橋恵美先生をシンポジストとしてお招きし、青森県の保育士の意識調査に基づいた現状や具体的な人材育成の取り組みについてお話を頂きました。学生たちが地元で夢を叶えられるような環境についてこれからも考えていきます。



先生の自分史「大学で学ぶということ」

食物栄養学科 本間 維先生



図書館にある小説を読むことは好きでしたが、図書館に関わる仕事に就くことはイメージしていませんでした。趣味だったテレビゲームの裏側を学ぶため進学した大学は、情報技術と、図書館について学ぶことができる大学でした。情報技術を中心に学びつつ、司書資格を取得するために図書館のことも学んだことで、紙資料を多く扱う図書館と、電子情報を扱うコンピュータとが、強いつながりがあると気づかされました。また、読書ではなく、課題解決の場という新たな視点で図書館を捉えることもできました。

留年や休学を重ねたこともありましたが、学外のコミュニティで様々な人と接し、進むペースや頑張り方は人それぞれだという開き直りができたことは、その後の大学生活を大きく変えました。

大学・短大は、学生が様々な人や文化、考え方に触れて、新たな視点を身につけたり、自身の世界を広げたりする場所であってほしい。そのために教員としてできることを、今後も考えていきたいと思っています。

読んで欲しいこの1冊

幼児保育学科 工藤 朗詠 先生

『5年3組リョウタ組』

石田衣良著（角川書店、2010）

主人公は涙もろくてまっすぐな、教師生活4年目のリョウタ先生。ドラマに出てくる先生のような熱血さはありませんが、その素朴さや誇りを持って仕事に向き合う姿に親近感が湧きます。学校で次々と起こる事件、児童や保護者、同僚達に、試行錯誤しながらも真正面から向き合っていく姿が描かれています。

この小説を通しリョウタ先生と1年を過ごす中で自分ならどうするだろうか、たとえ答えが出なくても何度も繰り返し悩み、考え続けることが大切であると改めて気付かされました。

読んだ後は爽やかで前向きな気持ちになり、明日からまた自分も頑張ろうと思える1冊です。何だか最近モチベーションが下がってきているな、というそんな時に、リョウタ先生からパワーをもらえるはずです。

研究室を訪ねて～鈴木研究室～

鈴木特研のメンバーは、とても面白いです。面白いメンバーが揃っているのも、すこしうるさくなる時もありますが、盛り上がる時と研究に取り組む時の気持ちの切り替えが上手です。鈴木先生は、学生との楽しいやりとりをしながらも、一人ひとりの進捗状況を把握しながら、それぞれの研究に対して助言をくださいます。鈴木先生は私たちのとても心強い味方でありながら、最大の敵でもあります。強敵です。私たちは、研究を同じ研究室の同じ机で行っているのも、互いの研究の進み具合を知ることができます。進み具合を知ること、負けていけないという気持ちになります。鈴木特研のメンバーはとても良き仲間、そして良きライバルと感じています。（幼児保育学科2年 三國 佳澄）



卒業生も活躍しています

食物栄養学科45期生 豊川 実沙樹さん

今年の3月、私は北海道江別市にある酪農学園大学の管理栄養士コースを卒業しました。青森中央短期大学在学中からキャリア支援センターの方々に協力して頂き、編入試験に備えました。就職していく友人に焦りを感じながらの勉強で、編入してから北海道での一人暮らしと、さらに難しい生化学や免疫学、より実践的な臨床栄養学や栄養教育論、厳しい隣地実習との戦いが続きました。

特に酪農学園大学は国試全員合格に力を入れており、教員と学生が一丸となって学んでいます。苦手分野を友人と教え合い、夜遅くまで補講を受け、毎週模試を解きました。おかげで国試には合格しましたが、まだまだ管理栄養士としてのスタートラインに立っただけと痛感しました。

これからも地元貢献できるようなさらに学び、努力を続けていきたいと思っています。



附属第一・第二・第三幼稚園/中央文化・浦町保育園

教育方針

一健康で明るく心豊かな子ども一

- 友達と仲良く遊ぶ。
- よく見、よく聞き、よく考える。
- 思ったことははっきり話す。
- 自分のことは自分でやる。

認定こども園附属第一幼稚園



お花にかわいい名前をつけたよ！これから大事に育てるね♪



「おおきなあれ」とおまじない♪土の中で大きくなってね。



どきどきの運動会。100パーセントの力で頑張りました♪

認定こども園附属第二幼稚園



春の遠足。広い野原で思う存分遊びました。愛情たっぷりのお弁当、おいしかったね。



おくちをあーん。虫歯はないかな？歯医者さんに上手に診ていただきました。



温水プールでの水遊び保育。顔に水がかかって泣かないよ。早く泳げるようになりたいな！

認定こども園附属第三幼稚園



〈5月・なのはな誕生会〉いいお顔でバチリ！なのはな畑です。



〈保育参観〉年長さんは練習した曲を発表しました。



〈今年行っている縦割り活動〉異年齢で活動しています。はくちょうさんはたよになります。

浦町保育園・中央文化保育園



〈三思園慰問〉おじいさん、おばあさんと楽しく手遊び。涙を流して喜んでくれました！



〈3・4・5歳児 保育参観〉保育テーマ「ともだちいっぱいっていいね」3歳児うめ組は数や色がわかるかな！！ルールを守り、お友達と楽しく参加していました。



〈いも植え〉「大きくなあれ」のかけ声をかけながら、じゃがいも・なす・ミニトマト・きゅうり、そしてズッキーニをはじめてうえました。成長を楽しみにしている子ども達です。

先生達活躍しています 第18回

「保護者の方と一緒に作る園生活」

認定こども園附属第三幼稚園

櫻井 美喜先生

昨年出産をし、一児のママとして今年度4月から附属第三幼稚園に復帰をさせていただいています。初めての育児を経験する中で、慌ただしい日々が過ぎっていますが、収穫もたくさんの毎日です。また、同じ子どもを育てる保護者の方々の気持ちがより分かるようになり、子ども達の園での様子を伝える中にも、同じママとして共感した話がたくさんできるようになりました。

特に今年度は年少組の担任をさせて頂いているので、幼稚園に進級し環境が変わった中で生活を送っている子どもの様子や、初めての園生活を送っている子どもの様子を、送迎時の際にできるだけ多く伝えられるよう努力しています。

子ども達が「できた！」「楽しかった！」という体験を積み重ね、それぞれの成長の力となるよう今後も保護者の方と一緒に成長を見守っていきたいと思います。

「食育指導をして伝えたいこと」

幼保連携型認定こども園浦町保育園

和嶋 千尋先生

私が浦町保育園で栄養士として勤務して2年目になりました。

献立作成や厨房作業も大事な仕事ですが、毎月行っている食育指導が私の楽しみです。いつもは子ども達と会話する機会が少ないですが、食育指導での子ども達とのコミュニケーションや、たくさんの笑顔や声が私の元気の源です。

4月の栄養指導では、「食事の時のあいさつ」についてお話しました。お肉やお魚、食材となる作物を育成する人達、そして料理する人達など様々な人が関わっているお話をしました。その影響なのか、子ども達からは、「給食さん、いつもおいしい給食ありがとう。」という言葉をもらいとてもうれしく、素直な気持ちに感動する毎日です。

子ども達においしくて安全な給食を提供するのはもちろんですが、食べ物を食べられる喜びや作ってもらった人への感謝の気持ち、お友達と一緒に食べる楽しさなどを、保育園で感じさせてあげられるような食育指導を心がけたいと思います。

「笑顔溢れる保育をめざして」

認定こども園中央文化保育園

對馬 彩花先生

昨年出産をし、約1年間の育児休暇を頂いて、今年度5月から中央文化保育園に復帰させて頂いています。今は1才児クラスの担任として、元気で可愛い子ども達と毎日楽しく過ごしています。

自分自身が親となったことで、子どもが成長する喜びをより身近で共感できるようになりました。また、子育てをしながら仕事をするの大変さも痛感し、少しでも保護者に寄り添えるような雰囲気作りができればな、と思っています。

これからも、子ども達のみならず、保護者も安心して子どもを預けられる場となるよう努力し、笑顔溢れる保育をしていけたらと思います。

読み聞かせたい一冊の絵本

認定こども園附属第一幼稚園 福士 円先生

『あたまのうえのかみさま』

のぶみ作（サンマーク出版、2016）

何をするにも「いやだ、いやだ」とばかり言っているアンちゃんに、ママはあたまのうえには神様がいますと言いますが、アンちゃんは信じません。

ある日、そんなアンちゃんの頭の上に神様が現れ、アンちゃんに見せたいものがあるとと言い、いろいろなものを見せながら大切なことを伝えます。アンちゃんがお腹の中にいるときに、初めて笑ったこと、我慢できたことなど、いつも神様は見ていたよ、知っていたよと言います。それを聞き、嬉しく優しい気持ちになるアンちゃん。

アンちゃんと神様のユーモアのあるやり取りの中から大切なこと、優しい気持ちが文字だけではなく、絵からも伝わってきて、子どもたちも自然と物語に引き込まれていくような作品です。

良い行いは誰も見ていないと思っても、必ずどこかで見守ってくれている人がいるよということを教えてくれる一冊です。



青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

Bunka Fashion Live 2017

青森中央文化専門学校では12月16日、アウガ5階AV多機能ホールにてBunka Fashion Live 2017を開催した。テーマは「BLAST」と題し、お客様に最高の時間を届けられるよう、自らの感性を爆発させ挑んだ。

企画・デザイン・制作・構成・映像・音響等、全てを学生がディレクションし、全8シーン・61点のオリジナル衣装を発表した。自らモデルとしても出演し、ヘアメイクやウォーキングに至るまで日頃学んでいるトータルファッションとしての知識や技術も披露した。

ゲストとして参加したモデルのみなさんや木浪学園の学生さんなど、たくさんの方にご協力・ご支援をいただき、ファッションショーは大盛況に終えた。



ユニバーサルファッションショー

1月27日、アウガ5階AV多機能ホールにおいて、あおりファッション協会の一員として、青森市民活動企画展『ユニバーサルファッションショー』に参加した。

学生達は、授業の中で誰にでも優しい服作り、ユニバーサルデザインを学習してきた。制作にあたり、まず、がんサバイバーのモデルや特別養護老人ホーム三思園の利用者の方より、車いすや障がいによる衣服の不具合や好みの聞き取りを行い、不便を解消するデザインを提案した。そして、ファッションショーではモデル達が制作した衣裳や帽子・バックを着用し、笑顔があふれるステージとなった。

また、学生オリジナルデザインによる衣装もステージで発表され、客席からの温かい拍手につつまれ好評を博したファッションショーとなった。



Bunka Fashion Liveに携わって ～学生レポート～

最初お願いを受けた時は、アナウンスはファッションショー全体の雰囲気が出るのでとても責任重大だなと思いました。本番では高校時代の部活での活動を思い出し、聞いている人を意識しながら一語一句言葉を大切に読んで読むことができました。最初は緊張しましたが、笑顔で楽しく読むことができました。また、ファッションショーを間近で見ることができ、夢があり華やかな世界を見ているようでした。今回の経験を活かし、これからも自分の役割に責任を持ち、生活していきたいです。
(青森中央経理専門学校 飯田 華帆)



※青森中央経理専門学校はアナウンスの他、受付や舞台セット組立などでも協力しました。

青森中央経理専門学校 卒業発表を終えて

2月5日、学術交流会館921教室にて、平成29年度 青森中央経理専門学校卒業発表会を実施しました。

2年間の集大成として、所属コースで学び、知識を深めてきたことをテーマにし、2年生の学生たちがプレゼンテーションソフトを使用して、一人一人発表を行いました。

聴講者から発表内容に対しての質問があがると、緊張しながら答える場面もありました。

学生からは「調べていくうちに、たくさんの情報が出てきて正確な情報かどうか選別するのが大変であったこと。知らないことが多くありとても勉強になった。」との声がありました。

人前で発表するという経験はこれから社会人になるうえで非常に良い経験になったのではないのでしょうか。



経理発信情報 Vol.21 ～学生パソコン教室(年賀状作成)～

11月3日、平成30年度『学生によるパソコン教室「年賀状作成」』講座を開催します。学生がインストラクターとして、参加者と学生がほぼマンツーマンで年賀状作成とともに会話も楽しみながら交流を深めていました。また、平成28年度に引き続き平成29年度も青森浜田郵便局臨時出張所を設け、年賀はがきの販売を行い好評いただきました。参加者の中には、購入したはがきに作成したデザインを印刷された方もいらっしゃいました。

ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。興味のある方は、是非ご参加ください。



おススメ図書vol.19

青森中央 専門学校 佐藤 紋子 先生
『パパは脳研究者～子供を育てる脳科学～』
池谷裕二著 (クレヨンハウス, 2017)

子供は、産まれてから言葉のコミュニケーションが完璧に取れているわけではないのに、なぜ、どんどん成長できるのか不思議だった。教育現場で働く私にとって、「教える」と、「成長」が「言葉」を通じて成果となるが、言葉を理解していない子供の成長について、何か参考になるものはないかと思っていた時に、この本に出会った。

本書は、著者が自分の娘さんの誕生をきっかけに、毎月の気づきをまとめた育児記録でもあり、脳の動きについて考えるための解説書のような一冊である。子供の成長と脳の発達の関係性が書かれているが、中でも、ネズミのひげに物が触れたときの脳活動を測った部分が印象的だった。自ら積極的に触りに行ったときは、他者によって触れさせられたときに比べ、10倍強い脳反応を引き起こす結果が出たという。能動的に行動する方が、脳が強く活性化するということがわかり、積極的な気持ちを見守ることが書かれている。

自発的な行動、気持ちが成長に繋がることを再認識させられ、日々の何気ない成長を大切にしていきたいと感じさせられる一冊である。

ファッション通信 vol.19

～コーディネイトスナップ～ 2018秋冬～

今回は2018秋冬のトレンドを取り入れてコーディネートしました。

トレンドカラーは「ホットピンク」と「イエロー」で、チェック柄も大胆なカラーを取り入れると良いです！キャップとパンツに取り入れたイエローのチェックは、色味は同じで柄の大きさが異なるものを選んだのがポイント。「ベイクドカラー」という、少しくすみがかかった色味が更にトレンド感を高めます。

また、カラフルなアニマル柄や、スパンコールやメタリックカラーなどのキラキラもトレンドです。今年は、少しの派手さと華やかさをプラスして、明るい秋のファッションを楽しみましょう。



(記事・写真：文化編集部サークル)

卒業生ピックアップ No.30

青森中央経理専門学校 観光コンシェルジュコース 平成28年度卒業
株式会社 日本レストランエンタプライズ 勤務
(グランクラス アテンダント) 成田 実由さん

私は高校卒業後、グランクラスアテンダントを目指して、観光コンシェルジュコースで学び、平成29年4月より株式会社日本レストランエンタプライズで東北・北海道新幹線のグランクラスアテンダントとして仕事をしています。

在学中は、授業や学校行事など、友達や後輩と、たくさん楽しい思い出をつくることができました。

現在、毎日多くのお客さまと触れ合い、自分自身の成長を感じることが出来るやりがいのある仕事だと実感しています。専門学校で学んだ観光分野の知識、ビジネスマナー、職場実習は、仕事でとても役に立っています。



新教職員紹介

- ① 職位・氏名
- ② 出身
- ③ 担当
- ④ 抱負

青森中央学院大学

経営法学部



- ①教授 成田 昌造（なりた しょうぞう）
- ②青森県
- ③教師論、日本史概説、教育実習
- ④真摯な学生の皆さんの姿に接し、微力ではありますが、懸命かつ誠実に支援していきたいと固く決意しています。



- ①准教授 中川 衛（なかがわ まもる）
- ②神奈川県
- ③地域経営論、アクト科目
- ④人生は数えきれないほどの意思決定の連続です。意思決定の拠り所にできるものを学生の皆さんが見つけれられるよう支援してまいります。



- ①専任講師 中山 洋志（なかやま ひろし）
- ②長崎県
- ③親族相続法、債権各論、物権法
- ④はるか南の大地からやって参りました。主に民法を担当します。実社会において役に立つ学問ですので、一緒に勉強しましょう。



- ①専任講師 柚原 愛子（ゆはら あいこ）
- ②北海道
- ③会社法I・II、有価証券法、経営法律総合論
- ④学生時代は法律科目が大嫌いでした。法学の面白味が伝えられるよう試行錯誤を重ねていきたいと思っています。

看護学部



- ①准教授 其田 貴美枝（そのた きみえ）
- ②青森県
- ③在宅看護学
- ④青森の良さを共有しながら、地域で暮らす対象をどのように支えるか一緒に考えて行きましょう。



- ①助手 造田 亮子（ぞうた りょうこ）
- ②北海道
- ③地域・在宅看護学助手
- ④青森市の郷土に触れながら、学生や地域の皆さんと看護を考えていきたいと思っています。宜しくお願いします。



- ①助手 山上 順矢（やまがみ じゅんや）
- ②青森県
- ③地域・在宅看護学領域
- ④地域に貢献できる人材育成のため、できる限り学生の学習を支援し、共に成長していきたいと思っています。



- ①助手 柿崎 はるな（かきざき はるな）
- ②青森県
- ③基礎看護学
- ④看護学生のみなさんと共に成長していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

別科助産専攻



- ①教授 伊藤 道子（いとう みちこ）
- ②北海道
- ③助産学
- ④開設初年度に入職するご縁をいただきました。「女性中心のケア」を実践できる助産師を育成するために邁進します。



- ①助教 丸山 夏弥（まるやま なつみ）
- ②秋田県
- ③助産学に関する科目
- ④学生が助産師になるという素晴らしい目標を達成できるように力を尽くします。

青森中央短期大学

食物栄養学科



- ①准教授 田村 義文（たむら よしふみ）
- ②青森県
- ③教師論、教育課程論、教職実践演習
- ④学生の皆さんの夢実現を精一杯サポートします。教職員の皆さんと早く仲良くなって、大学のために尽力したいと思います。

専攻科福祉専攻



- ①専任講師 美濃 陽介（みの ようすけ）
- ②北海道
- ③こころとからだのしくみ領域
- ④これまでの経験を活かして、学生の皆さんと共に学び高めあって行きたいと思っています。

幼保連携型認定こども園中央文化保育園・浦町保育園

幼保連携型認定こども園中央文化保育園



- ①進藤 舞子（しんどう まいこ）
- ②青森県
- ③0歳児 ひよこ組
- ④子ども達が毎日楽しく元気に過ごせるように、笑顔絶やさず頑張りたいと思います。

幼保連携型認定こども園浦町保育園



- ①中野渡 明香梨（なかのわたり あかり）
- ②岩手県
- ③1歳児 つくし組
- ④子ども達にとって、楽しく充実できるような保育をし、保護者の方からも信頼してもらえるように頑張ります。

認定こども園青森中央短期大学附属幼稚園

認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園



- ①林崎 瑞穂（はやしぎき みずほ）
- ②秋田県
- ③0歳児 つぼみ組
- ④先輩方の技術を積極的にどんどん吸収し、子ども達が安心できるような先生を目指します。



- ①本堂 陽子（ほんどう ようこ）
- ②青森県
- ③1歳児 つぼみ組
- ④何事にも一生懸命取り組み、子どもたちと笑顔で毎日を過ごせるように頑張りたいと思います。



- ①柳平 寿里（やなぎだいら じゅり）
- ②青森県
- ③満3歳児 さくら組
- ④初めての事ばかりでとても緊張していますが、持ち前の笑顔と明るさで早く名前を覚えてもらえるように頑張りたいと思います。



- ①船橋 真矢（ふなはし まや）
- ②青森県
- ③0歳児・つぼみ組
- ④これまでの経験を生かしながら子ども一人ひとりと丁寧に接することを心掛け、楽しく保育していきたいです。



- ①須藤 李奈（すとう りな）
- ②青森県
- ③2歳児 つくし組
- ④子どもたちの笑顔をたくさん見ることができるよう日々の保育活動を頑張ります。



- ①阿部 千明（あべ ちあき）
- ②青森県
- ③看護師
- ④子どもたちが元気で安全に過ごせるよう、少しの変化にも気づき、迅速に対応できる看護師でありたいと思います。

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園



- ①富永 愛美（とみなが まなみ）
- ②青森県
- ③フリー
- ④子ども達のパワーに負けないよう、明るく楽しんで頑張りたいと思います。よろしくお願いします！

認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園



- ①花谷 莉瑚（はなやり りこ）
- ②青森県
- ③1歳児 うぐいす組
- ④毎日笑顔を忘れず、子ども達と過ごす一日を大切に立派な保育者として成長していけるよう、一生懸命頑張ります！！

事務局



- ①小島 和明（こじま かずあき）
- ②北海道
- ③道南地区進学アドバイザー
- ④学生一人ひとりを大切にする青森田中学園の一員になったことを大変嬉しく思います。どうぞよろしくお願いいたします。



- ①清水 裕也（しみず ゆうや）
- ②青森県
- ③図書館情報センター
- ④教員、生徒の皆さんに気持ち良く図書館を利用して頂けるよう頑張りたいと思います。何かお困りでしたら、図書館カウンターまでお越しください。



- ①能代谷 哉（のしろや ちか）
- ②青森県
- ③総務課
- ④卒業生として、本校に貢献できるように頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



- ①坂本 祐馬（さかもと ゆうま）
- ②青森県
- ③キャリア支援センター
- ④まだまだわからないことだらけですが、早く仕事を覚えて学生たちの進路決定の一助になればと思います。



- ①佐藤 章子（さとう しょうこ）
- ②青森県
- ③学習支援センター
- ④学園に入学した皆さんが成長し、笑顔で『卒業式』を迎えられるよう、サポートをしていきたいと思っています。



- ①山内 省吾（やまうち しょうご）
- ②青森県
- ③学習支援センター
- ④学生に寄り添った支援が出来るように、目の前の仕事に全力で取り組んでいきたいです。よろしくお願いいたします。



- ①千葉 剛士（ちば たけひと）
- ②青森県
- ③入試広報センター
- ④本学の一員になって、大変うれしいです。入試広報課の戦力になれるよう、一日一日を大切に頑張っていきます。



- ①上北田 詩織（かみきた しろり）
- ②青森県
- ③入試広報センター
- ④まだまだわからないことがたくさんありますが、一つ一つ丁寧に、確実に仕事をしていけるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



- ①千葉 誠（ちば まこと）
- ②青森県
- ③教育開発推進課
- ④今まで大学職員としての経験はありませんが、講義や業務が円滑に進められるよう努めていきたいと思っています。

学園共通

海外留学プログラム～学生の成長を支援！

今年度の海外留学プログラムには、これまでの台湾やタイ等への留学の他に韓国・釜山外国語大学校への留学が新たに加わりました。

海外留学の選択肢が増えたこともあり、青森中央学院大学の経営法学部と看護学部から19名、青森中央短期大学食物栄養学科から3名の合計22名の希望者が前学期だけで集まり、過去最高となりました。

22名は、5月から「語学準備講座」や「英会話向上講座」で語学の準備に取り組むとともに「異文化コミュニケーション&危機管理講座」、「日本語教育事前講座」、「キャリアセミナー」などの講座で留学に対する心構えや知識を習得してきました。

7月18日には、海外留学奨励費授与式が二回に分けて行われ、19名には海外留学を支援する奨励費5万円が授与され、日本学生支援機構海外留学支援制度に基づく奨学金対象者3名には受給証明書が交付されました。

22名には、海外留学によって、授与式で語ってくれた抱負や目的を達成してもらい、国際交流を通してたくさんの経験を積み、帰国後に成長した姿を見せてほしいと期待しています。



国際産直プロジェクト

青森中央学院大学では、学生達が希少品種であるタイ産ハマチャノマンゴーの輸入から仕分け・販売などを体験する「国際産直プロジェクト」を、2011年から実施しています。

今年も、経営法学部、看護学部あわせて学生50名が総務・品質管理・在庫管理・広報など各担当を分担し、輸入品の販売に係る業務全般を体験、直接販売でも好評を博しました。



翔麗祭開催！



青森田中学園学園祭「翔麗祭」を開催いたします。

皆様のご来場、お待ちしております。

テーマ：喜喜楽楽～そこのあなたも笑いな祭～

日 時：9月22日(土)・23日(日) 10:00～17:30

●よしもとお笑いライブ【23日 30：15～】

●翔麗祭アイドルライブ【22日 13：30～】

●ミュージカル「七羽のカラス」

●ファッションショー「Toxic」

●軽音楽部 翔麗祭 LIVE2018

●アンサンブル LIVE 2018 in 翔麗祭

●DANCE SHOW CASE

●K-POP ダンス

●留学生日本語スピーチコンテスト【22日】

●園児と幼児保育学科学生の共同展

●引き馬体験

●大道芸【22日】

●カラオケ大会【22日 16：00～】

●大ビンゴ大会【23日 17：00～】

●模擬店 …他

開催行事案内

青森中央学院大学

●開学20周年記念講演

日 程		内 容	講 師
10月13日(土)	13:30～15:00	女子力A-girlプロジェクトワーク・ライフ・セミナー 「自分を仕事にする生き方」	ブロガー・作家 はあちゅう 氏
10月14日(日)	13:00～16:00	教育フォーラム 「人口減少が続く地域社会における教育の 在り方を考える」	基調講演講師 株式会社Prima Pinguino代表取締役・北陸大学教授 藤岡 慎二 氏
11月10日(土)	13:30～15:00	別科助産専攻開設記念講演 「奇跡のすぐそばに在ること」	大阪府りんくう総合医療センター産婦人科部長 荻田 和秀 氏
11月16日(金)	15:00～17:00	地域マネジメント・シンポジウム 「これからの青森経済と地域活性化のための人材育成」	日本銀行青森支店長 武田 吉孝 氏 青森商工会議所会頭 若井 敬一郎 氏

●まちなかキャンパスミニ公開講座2018

日 程		テーマ	内 容	講 師
10月26日(金)	18:00～19:10	ニュースが もっとよくわかる 法律講座	働き方改革の行方ー労働時間を中心にー	経営法学部教授 小俣 勝治
11月 9日(金)			憲法学からみた自民党憲法改正案	経営法学部専任講師 太田 航平
11月30日(金)			トランプ政権と法	経営法学部准教授 椎名 智彦
10月 6日(土)	10:00～11:30	健康寿命を延ばす 日常生活の工夫！	日常生活を快適に！尿漏れと皮膚のお手入れのお話	看護学部准教授 村山 志津子
11月17日(土)			動脈と静脈から自分の健康を考えてみませんか？	看護学部准教授 三國 裕子
1月19日(土)			フレイルにならないためのロコモチェック	看護学部准教授 鎌田 明美

青森中央短期大学

●公開講座

日 程		内 容
10月 5日(金)・10月12日(金)・10月26日(金)	18:30～20:00	日常を楽しむデッサン教室
10月19日(金)・11月16日(金)・12月20日(木)	18:30～20:00	ライブで楽しむ中短 JAZZ 講座
10月27日(土)	10:00～11:30	シニアのための健康づくり

●福祉セミナー

日 程		内 容	講 師
12月 1日(土)	14:00～15:30	施設介護と認知症ケア	介護福祉士 和田 行男 氏



「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、2月発行予定の101号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■101号応募締め切り：12月20日

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。

※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生在が撮影した未発表作品に限ります。

※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。

お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第100号

発行日：2018. 9. 20

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

杉田由佳理 本間 維

前田 美樹 齋藤明日香

坪谷 輝子 中田 尋美

岩葉 悦子 高橋 晴美

町田美智子